

当院で行っている主な検査

骨シンチ

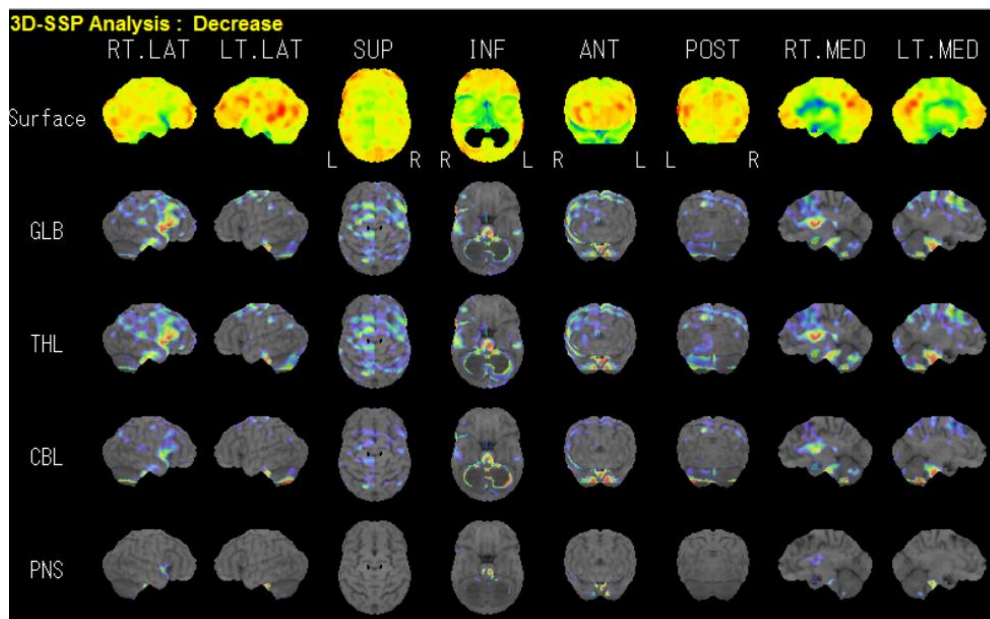
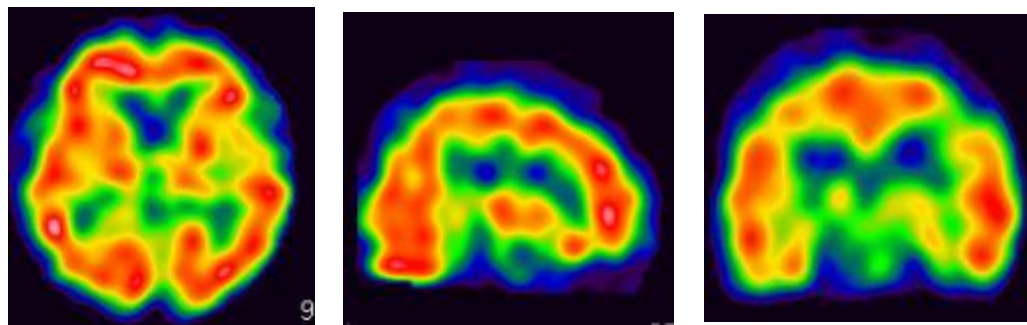
全身の骨を撮影します。

悪性腫瘍の骨への転移の検索や、
炎症性骨疾患の評価などに用いられます。



脳血流シンチ

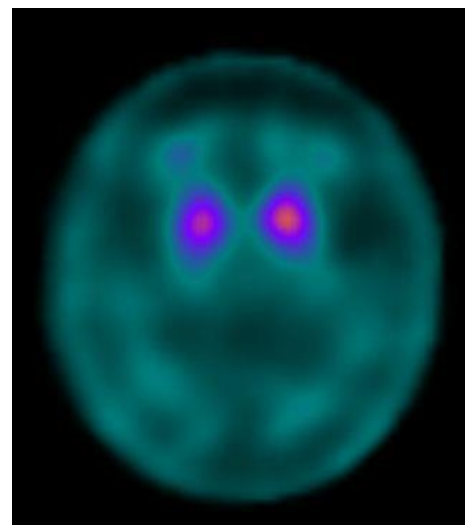
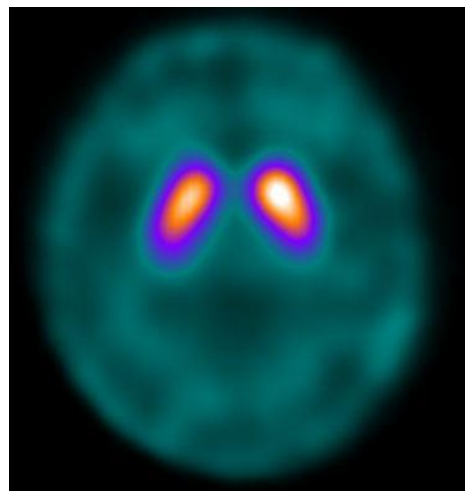
脳の血流分布を調べます。
統計学的画像解析により、
脳血管障害、認知症などの
様々な疾患の鑑別に用
いられます。



脳DATシンチ

脳の「黒質線条体ドーパミン神経」に存在するドーパミントランスポーター (DAT) を画像化する検査です。

薬剤の黒質線条体への集まり方を評価し、パーキンソン病やレビー小体型認知症の診断を行います。



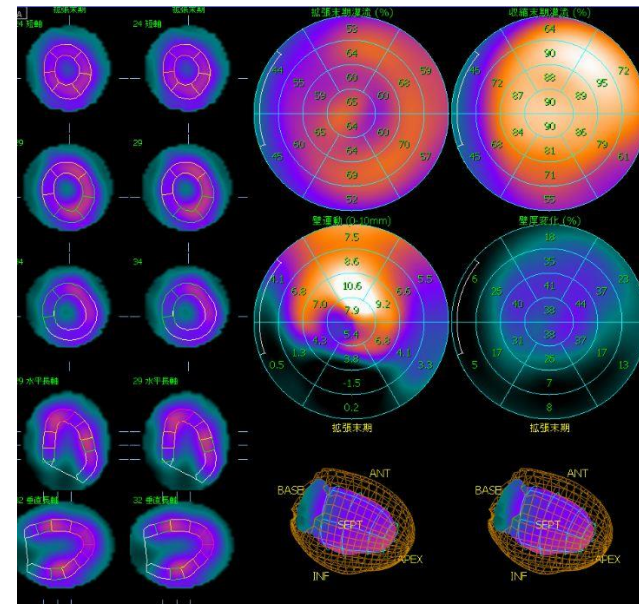
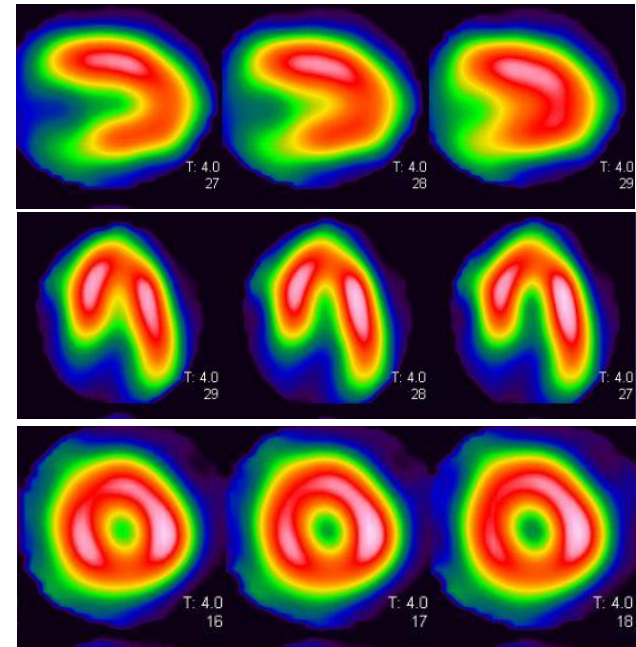
集積低下例

負荷心筋シンチ

心臓の血流状態を画像化します。

心臓に負荷をかけた時と、安静状態での検査を一日で行います。安静時と負荷時の画像を比較することで、冠動脈の狭窄・閉塞による心筋への血流不足(心筋虚血)の有無や程度を評価します。また、心電図と同期して画像収集を行うことで、負荷時・安静時の心臓壁運動を動画で観察することが可能です。

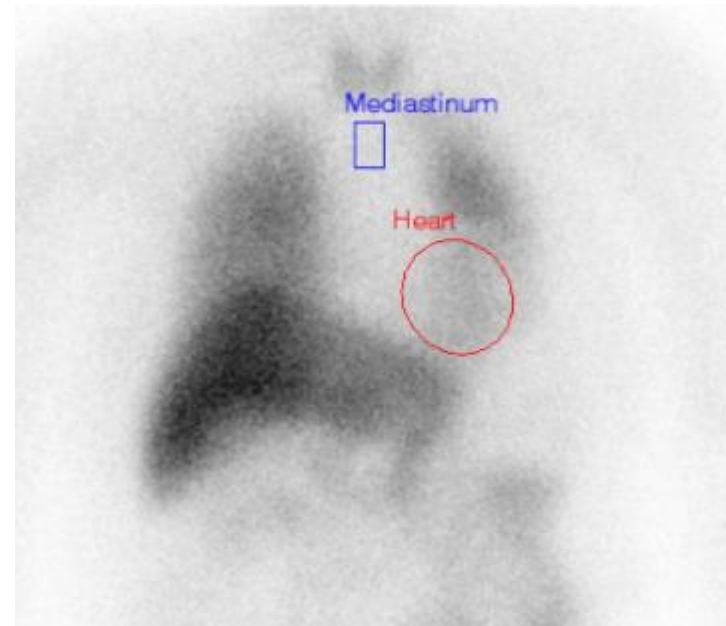
負荷の方法は、運動(自転車エルゴメータ)と薬剤とがあり、患者さんの状態にあわせて選択します。



心臓交感神経シンチ

交感神経は全身に分布している自律神経の一種で、心臓の活動を調節するはたらきがあります。

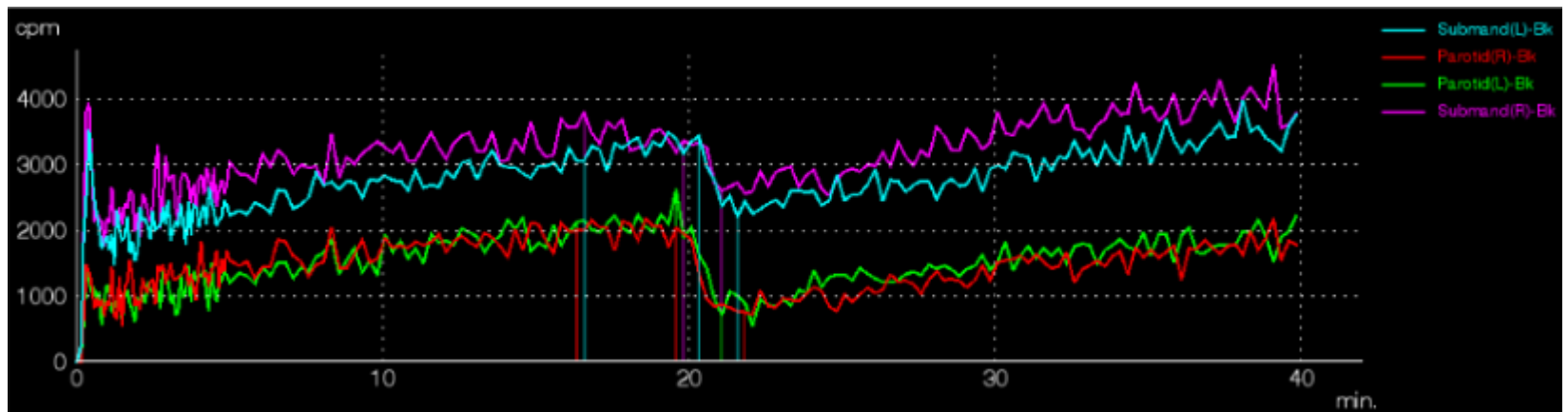
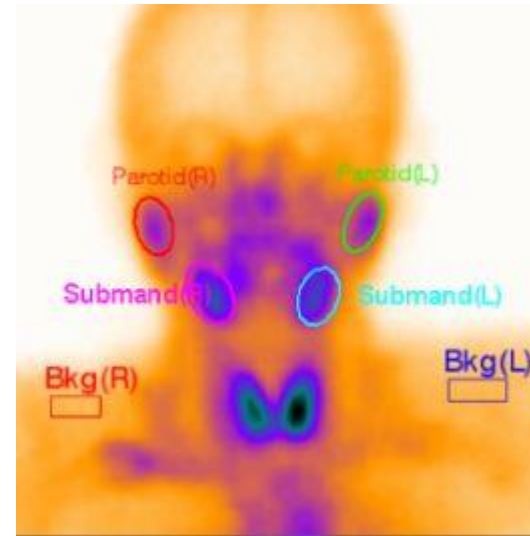
心不全の重症度評価や、神経変性疾患（パーキンソン病、レビー小体型認知症など）で心臓の交感神経障害が起きているかを診断するのに用いられます。



唾液腺シンチ

唾液腺の機能(分泌能力)や形態(大きさ、形、腫瘍の有無)を画像で評価します。

唾液腺への集積と、クエン酸などで刺激した際の唾液との排泄過程をカメラで連続撮影し、シェーグレン症候群や唾液腺腫瘍、炎症などの診断に用いられます。



腎静態シンチ

薬剤が腎臓に集まる様子を撮影することで、腎臓の形、大きさ、位置、内部の損傷（瘢痕）などを評価する検査です。

腎臓の機能そのものの評価よりも、腎臓の実質（内部組織）の状態（萎縮、瘢痕の有無、左右差など）を知るのに特に優れており、尿路感染による腎損傷（瘢痕）の検出に有用とされます。

